

千葉市美術館所蔵

浮世絵名品展



鳥居清倍「市川團十郎の虎退治」

2001年8月7日(火)～9月24日(月)

開館時間 10:00～18:00 金曜日は20:00まで(入館受付は閉館30分前)

入場料 一般/200円(160円) 大・高校生/150円(120円) 中・小学生100円(80円)

( )内は団体30名以上の料金

同時開催の『キンゼイコレクション 現代根付』展(8/7-9/24)

及び『日本の版画 1921-30』展(9/18-10/21)のチケットをお持ちの方は入場無料

休館日 毎週月曜日(9/24は開館)

ハローダイヤル / (043) 227-8600



千葉市美術館  
Chiba City Museum of Art

千葉市美術館所蔵

# 浮世絵名品展

千葉市美術館は、浮世絵を体系的に収集している数少ない公立美術館です。

今回は、その中から300点を選び、前後期に分けて展示いたします。普通の浮世絵版画200点を中心に、肉筆画・摺物・絵入版本100点を加えて構成される大規模なものです。コレクション中主要な作品はすべて展示しますので、この機会に是非ご鑑賞下さいませようご案内申し上げます。

ギャラリートーク (担当学芸員による)

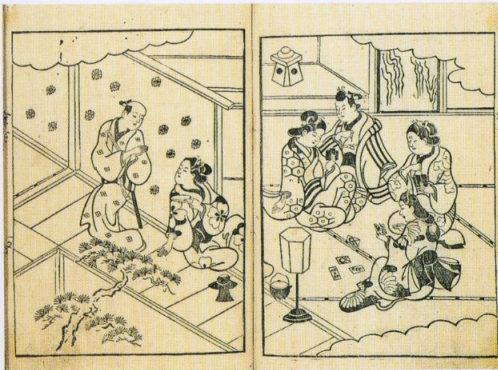
8月22日(水)、8月25日(土)、8月29日(水)、9月15日(土) いずれも14:00~ 8階展示室入口集合/参加自由



喜多川歌麿「納涼美人図」

絹本着色/寛政六、七年(1794-95)頃

美人画の大成者である喜多川歌麿の画業は、多くの版画作品を通して語られる事が多いが、少数ながら肉筆画の優品を残している。この作品はそのなかでも、歌麿最盛期の筆力さえわたる名品である。



鳥居清信「好色延命袋」

浮世草子五冊/元禄十年(1697)

ここに掲載した挿図は、第一話「笑初けり恋慕の骨牌」のもの。分銅屋富右衛門のお内儀と浪人の情交話である。正月三日に屋敷内で亭主の留守に無礼講でかるたなどを遊ぶ様子と、屋敷の裏に住む浪人・山辺半介の伏しているところへ、忍びこも内儀が描かれている。

表紙

鳥居清信「市川団十郎の虎退治」

大々判丹絵/正徳三年(1713)

虎を組みひしぎ、口を裂こうとする二代目市川団十郎。歌舞伎の荒事を、筋肉の隆起を誇張する「瓢箪足蚯蚓描」(ひょうたんあしむしむぎがき)と呼ばれる鳥居派独特の描法で描いた勇壮な作品である。



鳥居清長「美南見十二候 六月 座敷の遊宴」

大判錦絵二枚続摺物/天明四年(1784)頃

「美南見」とは、北の吉原に対する南の遊里、品川のことである。海に面した座敷で酒宴が始まろうとしているところだろう。遊女、女中、客の若衆のくつろいだ姿が描かれている。遠い夕日を眺める遊女のけだるい後ろ姿に夏の暑さがしのばれる。



葛飾北斎「千絵の海 総州銚子」

横中判錦絵/天保四年(1833)頃

「千絵の海」は各地の漁をテーマとして、水と人との織り成す景趣を描いた十枚のシリーズ。引く波と寄せる波が激しく交差する、銚子の荒波を描いた下総ゆかりの一枚。シリーズ中の代表作であるだけでなく、北斎の代表作のひとつである。

## 【交通案内】

JR 東日本千葉駅利用

- 東口より徒歩約15分
- 京成バス大学病院・南矢作行き (のりば⑦) 「大和橋」下車徒歩2分
- 千葉都市モノレール県庁前行「葭川公園」下車徒歩約5分

京成電鉄千葉中央駅利用

- 東口より徒歩約10分

## 千葉市美術館

〒260-8733 千葉県千葉市中央区中央3-10-8 TEL. 043-221-2311

URL <http://www.city.chiba.jp/art>

